

- みどりの食料システム戦略の実現に向け、対馬市において、水稻栽培での「**グリーンな栽培体系**」転換のための100%有機肥料栽培の検証を実施。
- 水稻品種「なつほのか」基肥について、慣行の有機入り化学肥料に対し、**100%有機肥料「けいふんペレット」**施用展示圃を設置。
- 有機入り化学肥料基肥栽培と比較し**生育、収量は同等**と判断されたことから、検討した有機肥料の**利用は可能**と考えられた。

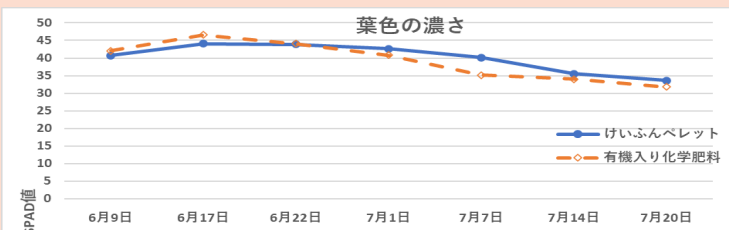
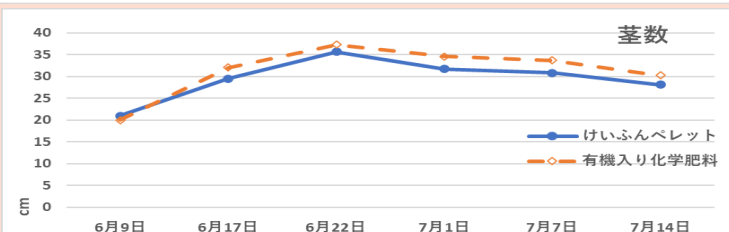
具体的な成果

1 基肥100%有機肥料栽培

■生育状況と収量

水稻品種「なつほのか」栽培において、基肥の有機入り化学肥料から**100%有機肥料**へ転換は可能と考えられた。

	稈長	穂長	穂数	収量	品質
	cm	cm	本	kg/10a	
けいふんペレット	69.8	17.5	20.3	561	2等
有機入り化学肥料	66.5	18.2	21.5	520	2等



けいふんペレット区

有機入り化学肥料区

普及指導員の活動

- ・4月上旬: 特別栽培農家へ**基肥100%有機肥料「けいふんペレット」**での栽培依頼
- ・5月上旬: 基肥に有機入り化学肥料と100%有機肥料「けいふんペレット」の比較展示圃設置
- ・6月～7月: 展示圃の生育状況確認のため**茎数、草丈、葉の色の調査**を実施
- ・7月上旬: 生育状況の結果葉の色が濃く草丈も伸びており、肥料成分が効いていることから、展示圃農家と検討し穂肥を施用しないことを判断
- ・9月上旬: 水稻の**特別栽培に取り組んでいる生産者を参集し現地検討会**を開催し、生育状況の確認と展示圃農家より感想の報告
- ・9月上旬: 収穫調査実施
- ・2月中旬: 収量調査結果報告

普及指導員だからできたこと

- ・展示圃農家が普及活動の中で日頃付き合いのある方で、特別栽培に取り組まれており**試験内容を理解**した上で実施することができた。
- ・生育状況を定期的に調査することで、**生育状況に応じた対応を農家と協議**しながら検討することができた。
- ・試験場や県の専門技術者と連携を取ることで、**有機肥料に関する情報が得られ展示圃農家へ伝えることができた。**

水稻のグリーンな栽培体系転換支援

活動期間：令和４年度

１．取組の背景

対馬市では、対馬に生息する「ツシマヤマネコ」の保護が行われており、以前から水稻において環境にやさしい農業に取り組まれている。

みどりの食料システム戦略として、化学肥料の使用量低減、有機農業の推進を目指す目標が示されたことから、「グリーンな栽培体系」転換にむけて、特別栽培を行っている水稻農家において、現地で使用されていない１００％有機肥料「けいふんペレット」を用いた水稻栽培展示圃を設置し、栽培適性、収量・品質について調査した。

２．活動内容（詳細）

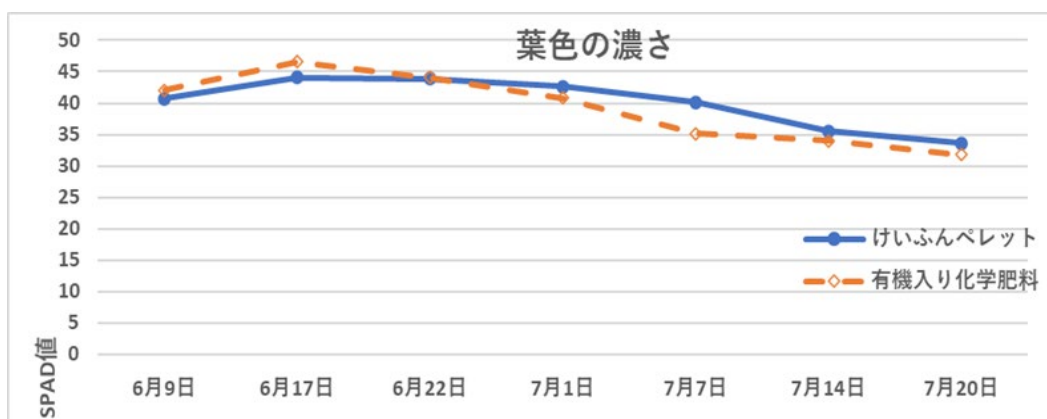
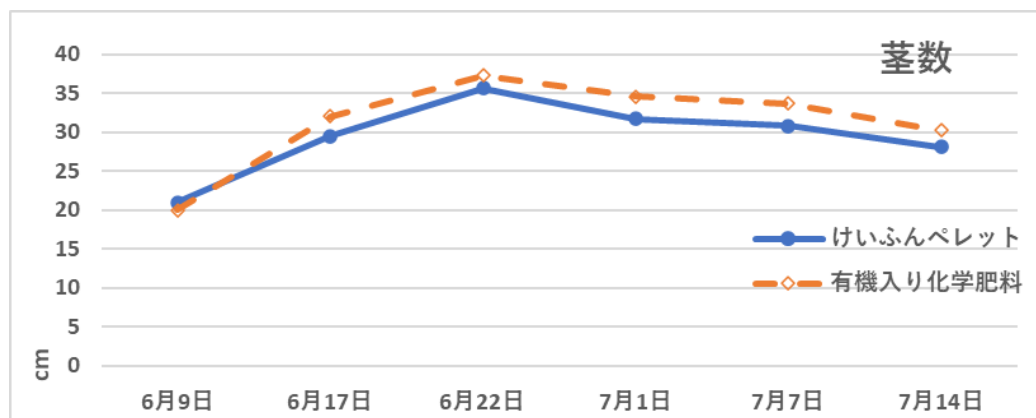
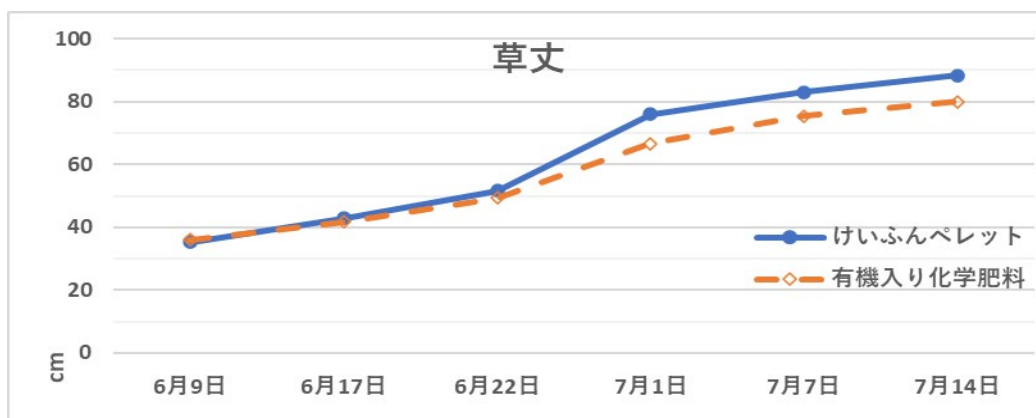
- ・水稻品種「なつほのか」の特別栽培に取り組まれている「T 稲作研究会」会員へ展示圃設置にむけて１００％有機肥料の特性を説明した。
- ・鶏糞を発酵させた１００％有機肥料「けいふんペレット」は、牛糞堆肥等に比べ窒素成分が高く、肥効率も高いものであるが、化学肥料に比べ施肥量が多く、１０a 当り １８０kg の施用が必要であることを理解いただいた。
- ・「けいふんペレット」の施肥は、トラクター装着の前装施肥機により散布が可能となったことから、移植に合わせて５月に施肥を実施した。
- ・移植後、定期的に茎数、草丈、葉色について調査し生育状況を確認した。
- ・６月下旬から中干を行ってもらったが、令和４年は好天で気温も高かったため、１００％有機肥料区、慣行の有機入り化学肥料区ともに分けつ抑制が十分でなかった。
- ・７月上旬の生育状況から葉色が濃く、草丈も伸びており肥料が効いていると判断し、１００％有機肥料区、有機入り化学肥料区ともに１回目の穂肥施用は行わないよう展示圃農家と打合せを実施した。
- ・その後２回目の穂肥時期にも葉色が濃く推移しており、２回目の穂肥の施用についても実施しないよう打合せを行った。この結果、１００％有機肥料区、有機入り化学肥料区ともに基肥のみでの栽培となった。
- ・９月上旬、水稻の特別栽培に取り組まれている生産者を集め基肥有機肥料１００％栽培について現地検討会を開催し、収穫間際の生育状況について、有機入り化学肥料区との比較を行ってもらった。
- ・現地検討会では、有機１００％肥料区と有機配合肥料区の生育状況についての説明を行い、展示圃設置農家からは、栽培した感想について参加者に伝えてもらった。
- ・両区の刈取り調査を行い、収量・品質調査を実施、調査結果について展示圃農家へ説明を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

100%有機肥料「けいふんペレット」は、慣行の有機入り化学肥料による基肥栽培と比較し、生育、収量は同等であり、本肥料の利用は可能と考えられた。

【生育状況と収量】

	稈長	穂長	穂数	収量	品質
	cm	cm	本	kg/10a	
けいふんペレット	69.8	17.5	20.3	561	2等
有機入り化学肥料	66.5	18.2	21.5	520	2等



成熟期の写真



けいふんペレット区



有機入り化学肥料区

4. 農家等からの評価・コメント（対馬市 A 氏）

- ・令和 4 年は田植え後の気温も高く、中干をかけたが抑えることができず穂数が多くなった。また、穂肥施用時期に葉色が濃く穂肥を施用できなくなったのは、実施した圃場の地力があつたのかもしれない。
- ・これまで使っている有機入り化学肥料と変わらない生育で、成熟期の状況もよく、今後利用できるかもしれない。

5. 普及指導員のコメント（対馬振興局農業振興普及課専門幹）

- ・展示圃農家が日頃から付き合いのある農家で、展示圃設置について全面的な協力が得られ、新たに取り組むことができた。
- ・移植後高温が続き、草丈も高くなる中での栽培であったが、倒伏も無く収穫ができ、貴重なデータが得られ、今後活用していきたい。

6. 現状・今後の展開等

- ・令和 4 年度については、気象状況、展示圃の圃場の地力、100%有機肥料「けいふんペレット」施肥量等の条件により基肥のみの栽培となったため、穂肥を施用した条件で収量、品質の比較検討を行う必要がある。
- ・今後の検証結果をもとに、環境にやさしい農業に取り組んでいる生産者に対し、基肥有機100%の取り組みを推進していく。